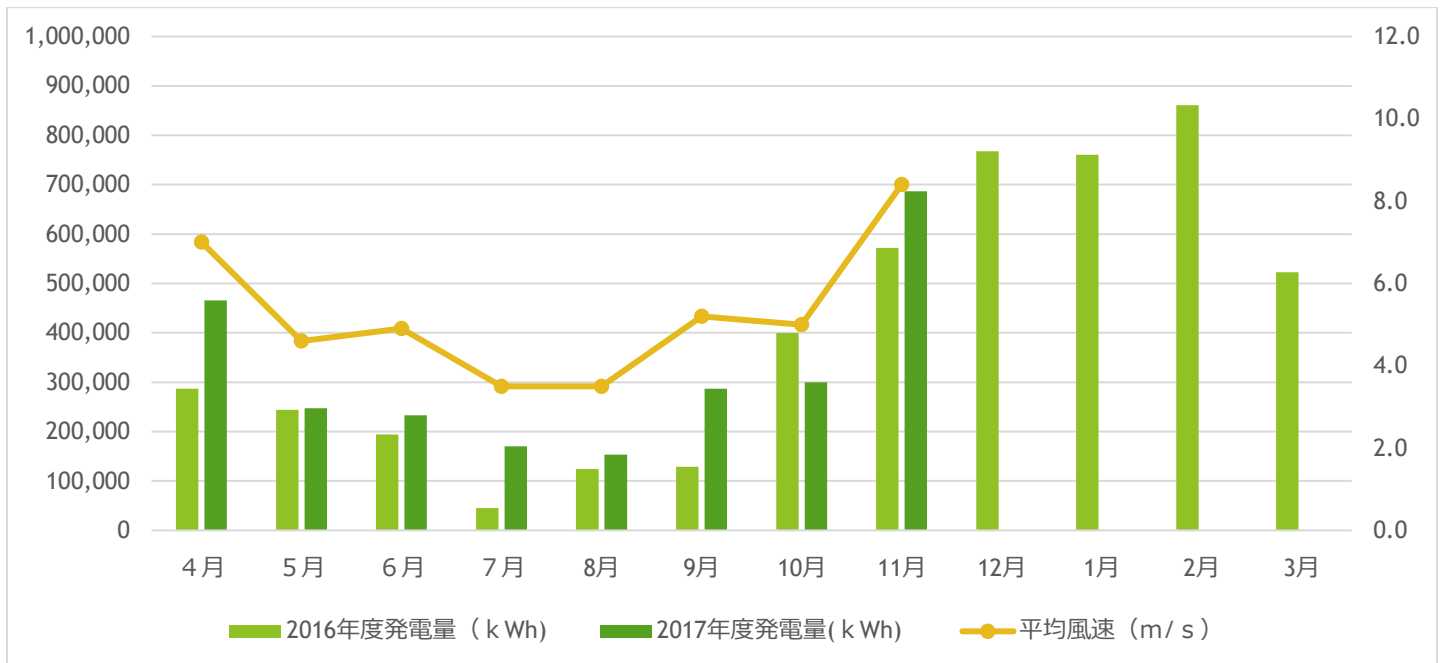


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 西村明子

○ 発電実績



風車「夢風」運転状況について

- 風況は昨年同月と比べて1.3m/s高い実績でした。好調な風を受け、順調に運転したので発電量前年比120.1%となりました。
- 東北電力要請の解列が2回ありました。(解列とは、電力会社からの要請で、電力系統から発電設備を切り離すことを言います。風が吹いていても、風車を停止する必要があります。遠隔または現地対応で操作しています。)

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	465,321	7.0	92.6
5月	247,330	4.6	84.5
6月	233,257	4.9	82.9
7月	170,227	3.5	84.9
8月	153,380	3.5	97.9
9月	286,896	5.2	95.0
10月	300,077	5.0	95.8
11月	686,714	8.4	94.8
12月			
1月			
2月			
3月			

グリーンファンド秋田理事会報告

11月20日（月）グリーンファンド秋田理事会を行いました。

- 仮称高森風力発電所建設の進め方について討議しました。
- 2017年度上半期決算報告の承認を行いました。上期は風況が良く、それに伴い売電売上前年比153.4%となりました。
- 札幌事務所移転に伴うグリーンファンド秋田所在地の変更について報告承認しました。
- デポーにかほフェアと生活クラブ風車5周年記念取り組み報告をしました。
- 平沢小学校環境教育の実施報告をしました。
- 事務局リーダー研修実施報告をしました。
- 映画「おだやかな革命」劇場公開進捗状況を確認しました。

寄稿 法政大学人間環境学部教授 西城戸誠

生活クラブ風車「夢風」が誕生して、5年が経ちました。地域に資する再生可能エネルギーを「コミュニティパワー」と呼びます。私も日本や世界各地のさまざまなコミュニティパワーを見てきましたが、夢風はその中でも最先端の試みだと思っています。

首都圏から遠く離れた秋田県に風車を作り、電気を供給することは、原発開発と同じではないかという指摘が、当初、生活クラブ内部であったと聞いています。そこから、にかほ市・にかほ市住民と生活クラブ生協・組合員が「対等互惠」の関係を作っていくためのさまざまな実践が展開されたことは周知の通りです。通常の都市－農村交流は、お互いの地域の物産展を行うぐらいしかありません。しかし、消費材の共同開発（夢風ブランド）や風車立地点（芹田地区）での消費材（トマトケチャップ）の原料生産、にかほ市、首都圏生活クラブにおける数多くの交流会の開催など、この5年間の変化は目を見張ります。



生活クラブの運動の特徴であり、魅力である点は、さまざまな立場の人が交流をすることで、新たな試みが生まれ、その参加者が「変身」していくところです。5年前と比べると、夢風ブランドに関わったにかほ市の生産者の方、芹田地区の住民の方、にかほ市という行政も大きく変わったと感じていると思いますし、首都圏の生活クラブ4単協もより「連帯」が進んだと感じていることでしょう。

今後の課題は、生活クラブとにかほ市の関係性をより深くすること（例えば、他の事業者や住民との交流）だけではなく、隣町の山形県遊佐町も含めた関わりをつくっていくことだと思います。2019年からは遊佐町に生活クラブの太陽光発電所が建設される予定です。大規模な太陽光発電開発には地元住民の批判があがる場合もありますが、生活クラブと長い交流、提携の歴史がある遊佐町では、そのようなことはないでしょう。そして、遊佐町での地域への貢献と自然環境に留意した発電事業を通じて、生活クラブと遊佐町の新たな関係が生まれると思います。

次の5年間で、エネルギーの部分では先に連携がすすんだにかほ市と、遊佐町、生活クラブの三者で、鳥海山麓つながりの新たな連携ができあがることを期待したいと思いますし、私自身もさまざまな形で関わっていきたく考えています。

東日本大震災復興支援まつり 2017in みなとみらいに参加しました。

「風化させることなく、励ましあいながら、復興していこう そして、未来を切り開いていこう」をスローガンに。



11月11日(土)生活クラブ神奈川を始めとする実行委員会主催の東日本大震災復興支援まつりが開催されました。当日は天候もよく、90ブースの出店があり12000人(主催者発表)の来場者がありました。グリーンファンド秋田では、生タラーメンの調理販売と夢風酒の試飲を行いました。朝から晴天に恵まれ少し汗ばむほどでしたが、タラーメンは大人気で行列が絶えず、1時過ぎには完売となりました。

にかほ市からは市役所企画課の高橋潔さん、道の駅象潟ねむの丘の佐々木勝美さん、三浦米太郎商店の三浦悦朗さんにご参加いただき、夢風ブランドを中心としたにかほ市の物産販売を行いました。夢風ブランド品は組合員にも周知されてきており、売れ行きも好調でした。

また、テント前では神奈川環境・平和委員メンバーが移動式の太陽光パネルや風車の模型を置いて自然エネルギーや生活クラブでんき、夢風ブランドのアピールを行いました。夏にかほ市でゼミ合宿を行った法政大学西城戸ゼミの学生さん3名もボランティアでにかほ市の法被姿でパンフレットを配布するなどアピールを行い、大変にぎやかな一日となりました。

夢風酒視察に行ってきました。

11月17日、今年の夢風酒の仕込みが始まった(株)飛良泉本舗を視察しました。

鳥海山の麓で作られたお米100%で作られる夢風酒。飛良泉本舗の遠田杜氏が酒米づくりから醸造してお酒になるまで一貫して作り上げている。1801酵母酒は秋田限定品。この酵母を使用して夢風酒が作られる。仕込み水には、その昔「飛びきり良い白い水」とされた鳥海山系の伏流水を使用。今年の夢風酒は11/7に仕込みが始まり、伺ったのは11/17。徹底した温度管理された中、10日経った夢風酒を試飲させていただきました。少しシュワツとした発泡酒感にもろみの粒つぶ感とフルーティーな香り。仕込み途中のお酒を初めて飲ませていただきましたが、火入れされた夢風酒とは一味違い、これまた美味でした。飛良泉本舗では毎年数々の賞を受賞されており、今年の夢風酒も縁起の良い(受賞したお酒が造られた)タンクに仕込まれていました。11/17は遠田杜氏不在のため、営業部長の荘司さんにお話をうかがいましたが、遠田杜氏の夢風酒にかける想いをたくさん感じることができました。昨年からはじめたデポー限定「生しぼり夢風酒」の取り組み、気候、気温との兼ね合いで今年は12月中旬頃入荷予定とのこと。風車との縁で開発された夢風ブランド品「夢風酒」。関った人々のたくさんの想いとともにとくさんの方に味わっていただけますようにと願いつつ、デポーに並ぶのを楽しみにしています。



生活クラブ千葉 理事 船水 香

でんきのアピールもがんばっています！

夢風ブランド開発にかかわった4単協の方々に寄稿いただいています。今月は千葉単協です。

生活クラブ千葉の環境委員会では、組合員への生活クラブでんきのアピールを行っています。また、夢風の視察や市原発電所「そらみん」(生活クラブ市原センターの太陽光発電の施設の愛称)のバースデーパーティーなど、様々な活動で自然エネルギーを広げています。そんな環境委員のにかほ愛あふれるコメントを紹介します。

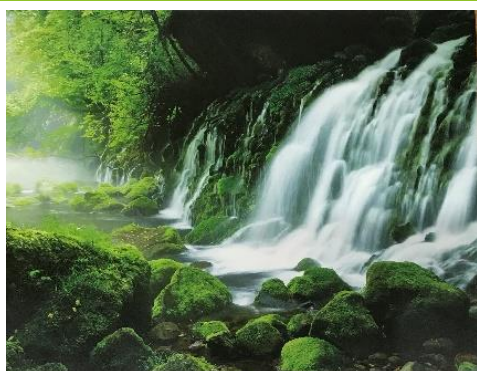
★夢風ブランドの取り組みはにかほ市をより身近に感じることができ、風車を

通したにかほのつながりは一生大事にしていきたいです。★2014年夏に夢風に対面しました。組合員の希望をのせてまわる風車が今でも目に焼きついています。★今年の7月に秋田を訪れた時にいただいた冷たい甘酒がとっても美味しかったです！寒い季節にもおススメです！！★夢風5周年イベントは夢風の力を感じ、生活クラブ・地域住民の未来への思いやケース&マサの感動の歌声♪印象的でした。★私の中の生活クラブでんきのイメージは、身近なセンター市原の「そらみん」とあの大きな「夢風」です！！★にかほの自然の恵みから誕生した「鱈しょつつる」。生活クラブの取り組みで知ることができました。今では我が家の常備品、大事に大事に使っています。



生活クラブ千葉 環境委員会メンバー

「元滝伏流水」世界の絶景と共に掲載～VJA グループ 2018 年カレンダー



三井住友 VISA カードで知られる VJA グループ 2018 年カレンダーに、にかほ市の元滝伏流水が掲載されました。

「光」をテーマとした世界の美しい景色 12 枚のなかに、フランスのモン・サン・ミッシェルやハワイのカウアイ島という名だたる観光名所とともに、日本で唯一にかほ市の「元滝伏流水」が掲載されております。こちらのカレンダーは、毎年好評でロングセラーとなっており、すでに完売です。

平成の名水百選にも選ばれており、清涼感と癒しのスポットをより多くの方に知っていただく絶好の機会となりました。

にかほ市役所 商工観光部 観光課 佐々木真紀子

※元滝伏流水は、JR 象潟駅から車で約 20 分、駐車場から徒歩 10 分です。グリーンファンド秋田でも、リーダーツアー等で訪れています。この風景に参加者から毎回歓声が上がります。マイナスイオンで癒されるようだと、大変好評です。